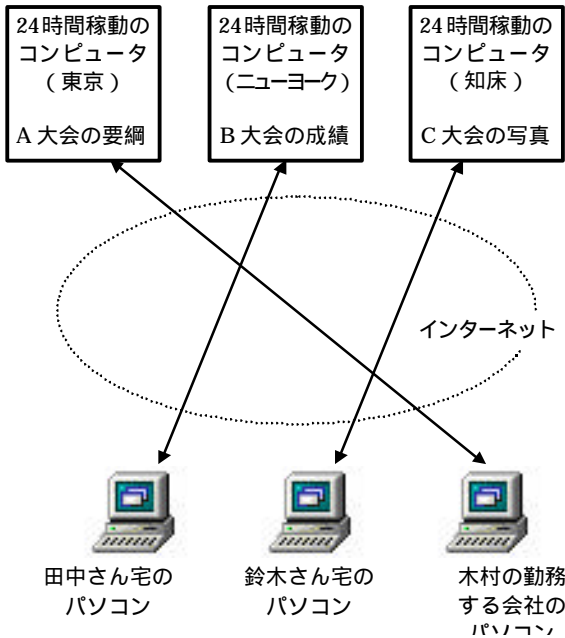


前回より日本のオリエンテーリングとインターネットとのかわりについて解説してきました。今回は「ホームページ」についてです。



ホームページのしくみ

ホームページを見る仕組みとしては、まず情報を送る側のしくみと、情報を受け取って見る側のしくみが必要です。基本的にホームページは自動的に配信されるものではなく、見たい情報を問い合わせるはじめて配信が行われるしくみになっています。

ホームページとは、「インターネット上に存在するコンピュータ上のデータ」です。ホームページのデータを持っているコンピュータはいつ要求があってもデータを送ることができるよう24時間・365日動作しています。ホームページを持つには単にパソコンを持っているだけではダメで、こうした24時間体制のコンピュータの一部を借りて、ここに情報をおいておく必要があります。

一般の人がインターネットに接続する時は、手持ちのパソコンから電話回線とインターネット接続業者を通して行われるのが普通です。こちらの機械はホームページを見たい時だけ電源を入れれば良いわけです。

パソコンからホームページを見るためには専用のソフトウェアを使用します。しかし現在は、このようなソフトウェアはパソコンを買ったときから付いてきますし、パソコン雑誌の付録にも無料で付いて来る時代となっています。

大会情報はホームページの時代

今やホームページを捜すと、たくさんのオリエンテーリング大会の情報が得られます。

主な大会の主催者が大会の要綱をホームページで発信しています。インターネットは距離による料金の差が無いので、隣の大会情報も、海外の大会情報も安く簡単にア

クセスできるのが特徴です。

特に海外の大会情報を集めようとする、もうホームページくらいしか情報を集める手段がないといってもいいでしょう。

紙の大会要綱を印刷するにはお金がかかりますが、配布はもっと大変です。特に遠い地域や海外に紙の要綱を送るのはコストがかかります。しかしホームページによる情報発信はその壁を一気に乗り越えることができるのです。

ホームページによる情報発信はコストと手間がかかりません。これが大会情報の発信手段としてホームページが広く使われるゆえんです。

それゆえ、大会情報を探るときはホームページを参考にしている人も多く、ホームページを持たない大会は、逆に今までより参加者集めに苦労することになります。

ホームページによる情報の流通とその落とし穴

しかし、大会主催者側もこの便利な道具に目が眩んで、従来からの地道なメディアである紙とか口コミとかを軽く考えるかも知れません。確かにホームページは便利な情報発信の手段ではありますが、アクセスされなければその機能を果たす事はできません。

大会情報の発信でホームページを有効に使用するためには、ホームページがあることを積極的に宣伝しないといけません。どこにあるのか判らないページは無きに等しいのです。

また、ホームページにアクセスできない人がまだまだ多いのが現状です。ホームページにアクセスできる人の数はこれから徐々に増えて行くことは確かですが、爆発的な普及率を得るまでにはいかないでしょう。

機械をいじるのが苦手な人も多くいらっしゃいます。ホームページやインターネットに頼った情報発信を行っている、こうした人はほとんど情報が行き渡らないことになります。

ホームページは大会情報の一手段

当たり前ですが、ホームページは大会情報発信の一手段に過ぎません。他の大会会場での宣伝や、このオリエンテーリングマガジンなどのような紙媒体による宣伝は欠かせません。口コミも大きな宣伝媒体となっています。

ただ、ホームページが他の宣伝媒体と異なっているのは、インターネットが使えれば誰でも大会情報にアクセスできることです。普段オリエンテーリングをしたことのない人でも偶然情報を得ることも考えられますし、ちょっとオリエンテーリングに興味のある人が、他のホームページを見ているうちに偶然大会情報に行きつくことがあります。こうした人がホームページの大会要綱を見てオリエンテーリング大会に参加してくれれば、大会要綱のホームページ作成担当者も報われるのではないのでしょうか。

一般的に「ホームページ」と呼ばれているインターネットのサービスは、専門家の間ではウェブ(Web)と呼ばれています。「ホームページ」とはWebサービスの入口となる最初のファイル(データ)の事を指します。しかし、日本では一般的にWebサービス全体のことを「ホームページ」と報道され、これが一般的になってしまいました。